

韮崎市・北杜市地域通貨「アクア」の実証研究 —流通ネットワーク分析とアンケート調査より—

西部忠¹・栗田健一²・宮崎義久³・吉地望⁴・草郷孝好⁵

はじめに

本報告論文の目的は、進化主義的的制度設計アプローチによるメディア・デザインとコミュニティ・ドックという実践的政策手法に基づいて、韮崎市・北杜市の地域通貨（コミュニティ通貨）「アクア」に関する実証研究を行い、「アクア」の効果や意義を明らかにすることにある。

コミュニティ・ドックにおいては、研究者と当事主体の協働関係の構築が非常に重要なので、まず、コミュニティ・ドックを行うことになった経緯について説明しておこう。2009年9月に韮崎市・北杜市を活動拠点とする韮崎青年会議所（以下、韮崎JC）のメンバーより西部へ、「韮崎市で地域通貨を発行したいので、アドバイザーを依頼したい」というメールがあった。その後、西部と韮崎JCメンバーが北大で会合を持ち、西部が韮崎JCに対して地域通貨について講演を行った。その時、「アクア」発行に伴うメディア・デザインとコミュニティ・ドックを実施するための同意がなされた。さらに、西部、草郷、栗田、宮崎が韮崎JCを訪問し、コミュニティ・ドックについて説明し、その中身について話し合うなど準備がなされた。その過程で、発行者である韮崎JCに、「アクア」による経済やコミュニティの活性効果を測定することの意義を説明し、理解と同意を得られたので、紙券裏面に氏名、日時、用途先等の取引データを記載する欄を作成するよう依頼するとともに、利用者取引データの記載を呼びかけるようお願いした。こうして得られた流通経路データを使用して、流通速度の測定や流通ネットワーク分析を行うことが可能になった。それと同時に、「アクア」発行の事前と事後にアンケート調査（住民意識の変化、地域通貨に対する認知度の変化、通貨の利用状況等）を実施することにも同意してもらい、ご協力をいただくことになった。こうした経緯でコミュニティ・ドックが開始されることとなった。これらの調査分析の結果について、以下で説明する。

¹ 北海道大学大学院経済学研究科 教授

² 慶應義塾大学SFC研究所 上席所員（訪問）

³ 北海道大学大学院経済学研究科 博士課程

⁴ 旭川大学経済学部 准教授

⁵ 関西大学大学院社会学研究科 教授

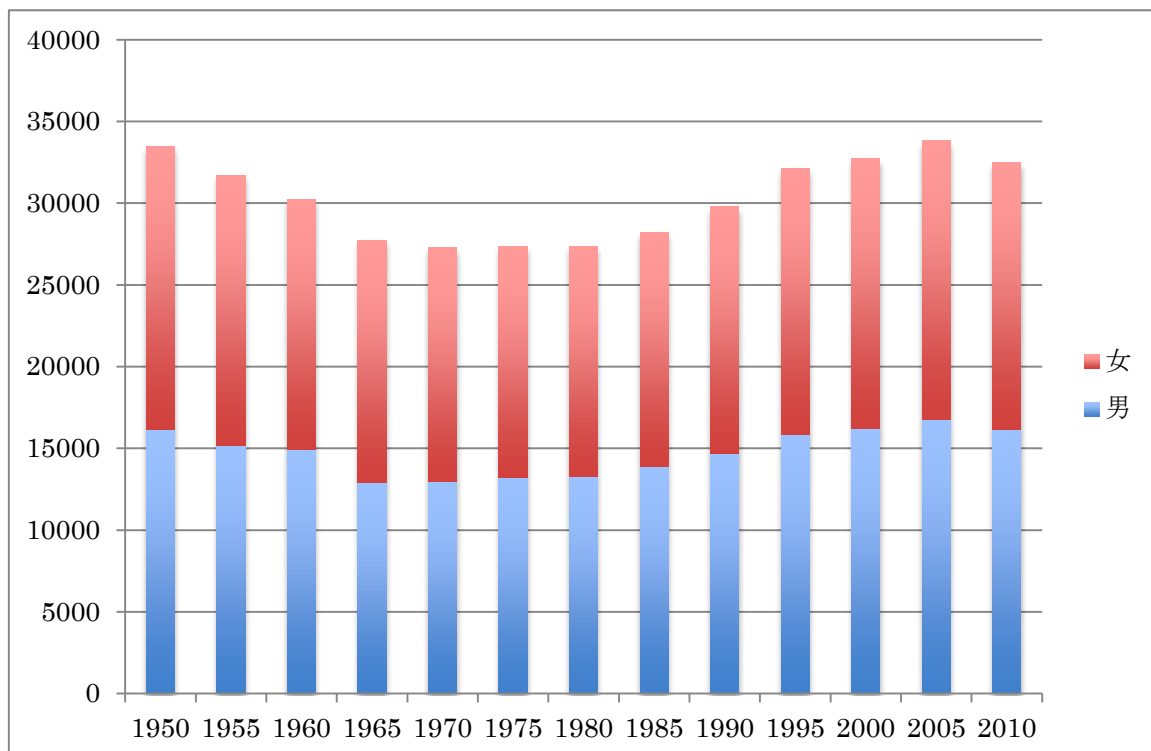
第1章 韮崎市・北杜市と地域通貨「アクア」について

はじめに、「アクア」流通実験の対象地域である山梨県韮崎市と北杜市の現状を簡単に紹介し、次に韮崎青年会議所が発行する地域通貨「アクア」の意義や特徴とその仕組みについて説明する。

第1節 韮崎市の現状

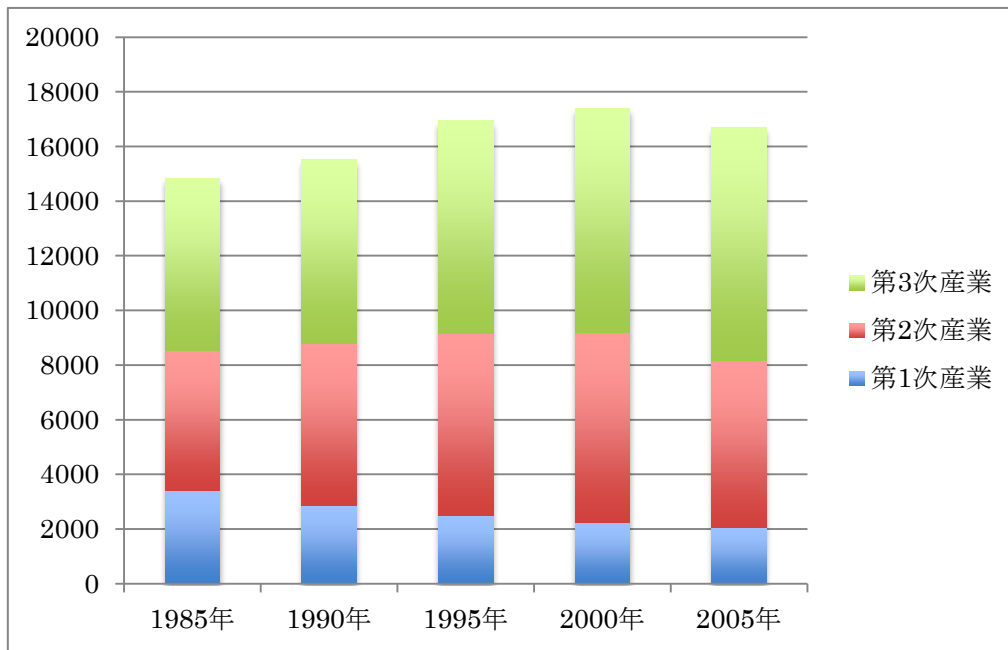
韮崎市は、かつて甲州街道の宿場町として栄えた歴史があり、現在では桜の名所としても有名である。1889年（明治22年）に市町村制が施行され、周辺地域の合併を繰り返した後、1954年（昭和29年）に韮崎市が誕生した。2011年（平成23年）12月現在、総人口は31,717人、うち男性15,757人、女性15,960人、男女比率は男性49.7%、女性50.3%である。また、山梨県の「高齢者福祉基礎調査」によれば、2011年4月1日現在、韮崎市の高齢化比率は22.5%と全国平均レベルである。図1-1の人口推移を見てみると、当初は減少傾向であったが、現在では韮崎市の誕生当時とほぼ同じ水準まで回復している。さらに、産業別の就業人口を見ると、第一次産業2,059人、第二次産業6,125人、第三次産業8,508人であり、第三次産業が中心であるものの、第二次産業が他の地域に比べて高い割合を示している（2005年度「国勢調査」）。ここ20年の推移を見ても明らかなように、産業構造の転換が進み、第一次産業が減少傾向にあり、一方で第二次産業と第三次産業が増加傾向にある（図1-2）。

図1-1 韮崎市における人口の推移



（出所）「国勢調査」より筆者作成

図 1-2 韮崎市における産業別就業者数の推移



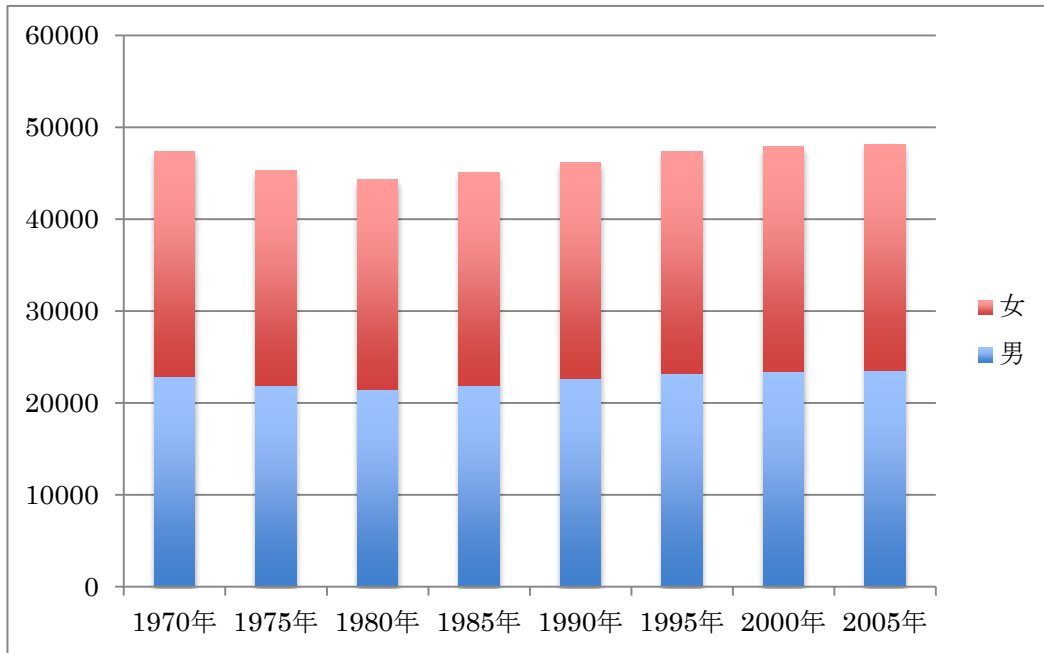
(出所)「国勢調査」より筆者作成

第 2 節 北杜市の現状

北杜市は、韮崎市と同様に山梨県の北西に位置し、八ヶ岳や南アルプスなど日本を代表する山岳地帯に囲まれた地域で、豊富な水資源があり、リゾート地としても有名な地域である。平成の大合併により、2004年11月に、峡北地域の明野村、須玉町、高根町、長坂町、大泉村、白州町、武川村の7町村が合併し、北杜市が誕生した。その後、2006年3月には小淵沢町とも合併し、現在に至っている。北杜市の総人口は、48,952人、うち男性23,996人、女性24,956人、男女比率は、男性49%、女性51%である。また、高齢化比率は29.9%であり、県内でも高い割合を示している(2011年4月1日現在「高齢者福祉基礎調査」)。

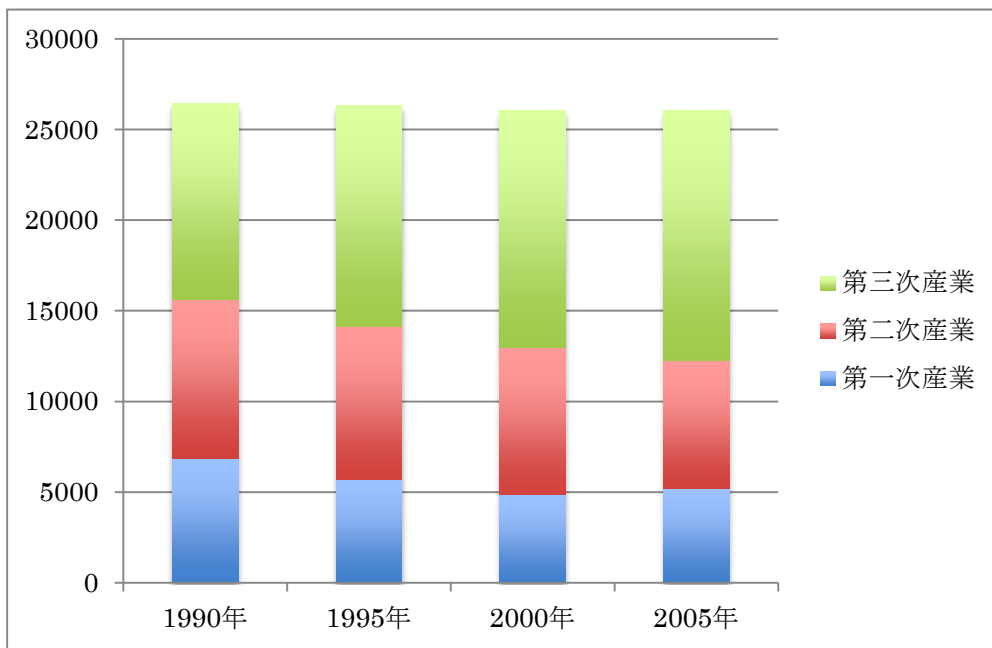
図 1-3 の人口推移を見てみると、1980年代にかけてわずかに減少傾向が続いていたが、その後は増加傾向に転じている。さらに、産業別就業人口を見ると、第一次産業5,221人、第二次産業7,029人、第三次産業13,798人となっており、韮崎市同様に第三次産業が中心である。ここ15年の推移を見ると、やや第一次産業と第二次産業が減少傾向にあり、第三次産業が増加傾向にある(図 1-4)。

図 1-3 北杜市における人口推移



(出所)「国勢調査」より筆者作成

図 1-4 北杜市における産業別就業者数の推移



(出所)「国勢調査」より筆者作成

第3節 地域通貨「アクア」の導入背景

本流通実験は、社団法人韮崎青年会議所の40周年記念事業として実施された。地域通貨の名称は「アクア」で、525 アクア=525 円相当となっている。「アクア」という名称は生命の源である水資源の大切さを意識して名付けられ、地球環境の大切さと主催者側の環境ボランティアへの取り組み姿勢を表すメッセージ性が込められた。地域通貨の発行と運営は、韮崎青年会議所内の地域通貨「アクア」実行委員会が主体となっている。図 1-5 の広報用チラシによれば、「アクア」発行の目的は、「地域通貨発行により、地域の商店街や住民との交流を促進し、環境ボランティアを通じて仲間づくりや地域コミュニティの活性化を目的としています。また、環境保護や商店街の活性化という共同の目的により共同意識が芽生え、社会貢献活動の促進としても期待されています。」と説明されており、環境保全と商店街の活性化を同時達成することを狙いとしている。

アースデイマネーやアトム通貨など自然環境保護などの活動に貢献した人々に地域通貨を配布し、それが地域の商店街などで利用されるケースは、数多く見られた。今回の流通実験では、韮崎市と北杜市で環境保全活動を積極的に推進する市民団体などが中心となり、ボランティア活動の参加者に「アクア」を配布し、受け取った人々が地元商店街などで地域通貨を利用することができた。例えば、「バイオディーゼル燃料を考える会」がひまわりの種まきや草刈りなどのボランティア活動を実施した際に、参加者に「アクア」を配布している。その他、NPO 法人「森造」が主催する植樹とマイ箸づくりのイベント参加者に「アクア」が配布された。また、環境ボランティア以外にも、2010年10月30日に行われた「八ヶ岳アートフェスティバル」の会場内にて、「アクア」が利用された。